

【第一部パネリスト・司会紹介】

林 譲治（はやし・じょうじ）：北海道夕張市出身、兵庫県在住

1962年2月、北海道生まれ。SF作家。臨床検査技師を経て、1995年『大日本帝国欧州電撃作戦』（共著）で作家デビュー。2000年以降は、『ウロボロスの波動』『ストリンガーの沈黙』と続く《AAD D》シリーズをはじめ、『記憶汚染』『進化の設計者』（以上、早川書房刊）など。最新刊は『小惑星2162DSの謎』（岩崎書店）。家族は妻。

中村 融（なかむら・とおる）：愛知県豊橋市出身、在住

中央大学在学中より海外SFの研究、評論、翻訳など幅広い活動を行う。1984年には評論「鏡の国の反在土」でSFファンジン大賞評論部門を受賞。1987年にジャック・ヴァンスの「五つの月が昇るとき」で翻訳家としてプロデビュー。以降、新作の翻訳紹介、古典の新訳、SF/ファンタジーのアンソロジー編集など、多方面で活躍中。2010年にSFマガジン創刊50周年企画として、『ワイオミング生まれの宇宙飛行士 宇宙開発SF傑作選』を編纂した。

片桐翔造（かたぎり・しょうぞう）：名古屋市出身、在住

名古屋大学卒。在学中はSF研究会に所属し、ファン活動に参加。「東京創元社〈ミステリ・フロンティア〉特集号」「ゾンビ映画特集号」などの会誌を編集。好きな作家はフィリップ・K・ディックとサキ。最近『サンリオSF文庫総解説』（本の雑誌社）や『SFマガジン』に書評や短評を寄稿している。

【第二部パネリスト・司会紹介】

大野典宏（おおの・のりひろ）：愛知県江南市出身、在住

故深見弾氏に師事し、スタニスラフ・レムやストルガツキー兄弟など東欧圏SFの翻訳紹介に長年携わる。『SFマガジン』にてコラム「サイバーカルチャートレンド」を連載中。IT関連や武道、ロシア事情全般に関する訳書や編著も多数。さらに東欧圏のSF関係者との交流にも尽力するなど多方面で活躍中。最近はストルガツキー兄弟の『ストーカー』やレムの『泰平ヨン』シリーズの改訳を精力的に行っている。

洞谷謙二／舞狂小鬼（ほらやけんじ／まいくるこおに）：富山県高岡市出身、名古屋市在住

SFファングループ・アンビヴァレンス所属。会社勤めのかたわら、週末ブロガーとして読書ブログ「お気らく活字生活」で本の感想などを紹介。本の趣味は“広く浅く”がモットー。SF／幻想文学／ミステリといったジャンル小説や文学の他、ノンフィクションやエッセイ、古典までなんでも読む雑食タイプ。

芥川絵梨（あくたがわ・えり）：名古屋大学SF研究会会員

【第三部パネリスト・コメンテーター紹介】

永尾 奨（ながお・しょう） **吉沢駿人**（よしざわ・はやと）：名古屋大学SF研究会会員

増田まもる（ますだ・まもる）：宮城県出身、大阪府在住

1979年、トマス・M・ディッシュの大作『334』をサンリオSF文庫から翻訳出版し注目され。翌年J・G・バラードの『夢幻会社』の翻訳と解説で一躍脚光を浴びる。難解な原文を詩的で繊細な日本語に置き換え表現する翻訳技術は高い評価を受けている。また科学書や児童向けの科学啓蒙書などの翻訳編集でも活躍中。2012年から扶桑社の「クトゥルフ神話への招待」シリーズの翻訳に携わっている。

立原透耶（たちはら・とうや）：大阪府出身、北海道在住

SF、ファンタジー&ホラーの諸領域で活躍する作家、北星学園大学准教授。中国古典文学・中国SFを研究し、翻訳も行なう。1991年に『夢売りのたまご』でコバルト読者大賞を受賞しデビュー。メディア・ファクトリーから刊行された『ひとり百物語』シリーズが怪談実話集として人気が高く、巻を重ねている。主要著書に『ささやき』『闇の皇子』『竜と宙』ほか。『竜と宙』は2013年に中国語訳が出版された。